



北上山系の高標高地でもトウモロコシが生産できる

研究のねらい

細断型ロールペーラの登場により、サイロ施設から離れた圃場でもサイレージ用トウモロコシの調製が可能となった。そこで、北上山系に点在する公共草地を新たなトウモロコシの生産基盤として活用するために、寒冷な高標高地でのトウモロコシの生産の可能性を検討する。

成果の内容

①北上山系の高標高地でサイレージ用トウモロコシを栽培する場合、極早生品種 (RM75) を5月中に播種することで1500kg/10a程度の乾物収量が確保できる (表)。

表 播種期別のトウモロコシの到達ステージと収量

	播種期	到達ステージ	乾物収量(kg/10a)
2005	5/25	黄熟初期	1492
	6/13	糊熟中期	947
2006	5/10	黄熟中期	1594
	5/17	黄熟初期	1513
	5/24	黄熟初期	1671
	5/31	糊熟後期	1617
	6/8	糊熟初期	1402

②播種期が遅くなるほど、収穫期の乾物率が低下する。細断型ロールペーラによる調製が可能な乾物率25%を確保するには、5月中に播種する必要がある (図1)。

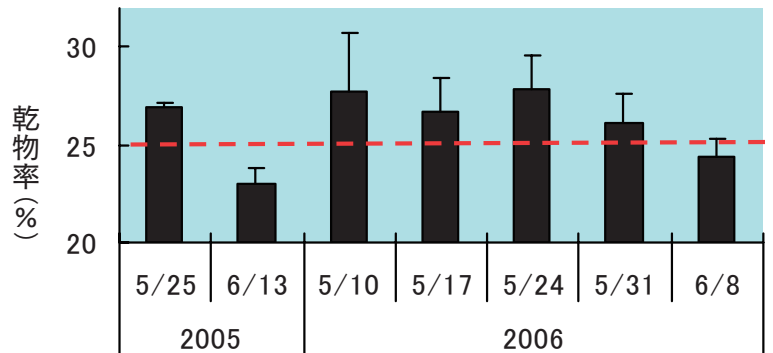


図1 播種期別のトウモロコシの乾物率

③乾物率を25%以上とするには、播種から収穫までの生育期間の積算気温が1900°C・日以上であることが一つの目安となる (図2)。

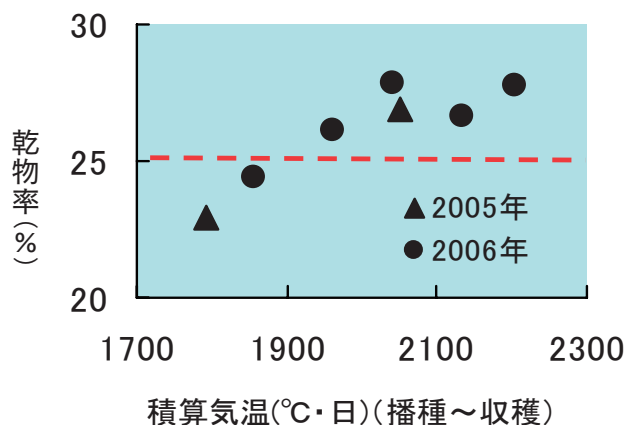


図2 生育期間の積算気温と乾物率の関係

成果の利活用

本成果は岩手県早坂高原 (標高916m) で実施した試験から得られたものであり、同様な高標高地においてトウモロコシを導入し、飼料基盤を強化することが可能である。